

横浜にぎわい座 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
使命1 大衆芸能と市民をつなげる	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型事業の実施回数が 245 回と目標を大幅に超えて開催されており、入場者数も着実に伸ばしていることを評価します。 ・各公演のアンケートの確認、HP の問い合わせを毎日チェックするなど、お客様の声に真摯に向き合ってい、速やかに対応されている様子が分かりました。年度内や次年度事業に反映されていることを評価します。 ・桂歌丸前館長の七回忌にちなんだシリーズ公演や関連展示により、落語の多彩な魅力にあれる機会を作られたことを評価します。 ・展示コーナーでは、公演に連動した内容を、目標回数を大きく上回る回数で年間切れ目なく行っており、高く評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞型事業の入場者数は毎年着実に延ばしているものの、R8 の目標値 50,000 人とは大きく差があるので、引き続き努力されることを期待します。 ・初来館者の割合が微減しています。目標値の 50%に少しでも近づけるよう、引き続き工夫ある取り組みを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ目標を上回る事業数で、特に企画公演、アウトリーチを多く行っている点を評価します。 ・また、毎月テーマを変えて展示を行い、芸能を多角的に発信していることは特筆すべき活動だと思いました（事業視察の際に拝見した 2 階展示コーナーは見応えがありました）。 ・加えて、リピーターの定着率が高いようで、この点も評価したいです。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客開拓に苦戦が見られます。アウトリーチ活動と新規顧客開拓活動は明確に分け、後者は芸能に関心がありそうな層や団体へアプローチするなど、量的に効果のある方法に切り替えるといった見直しが必要かもしれません。既存の考え方とらわれない、効果的な手法へのシフトを期待したいです。 ・加えて、展示を観客以外の方にも見てもらえるようにして欲しいと思いました。展示に関心を持つ人が新規顧客につながる可能性を考えても良いのではと感じました。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな事業の展開、特に鑑賞型事業においては実施回数が前年より 18 回も多く行っています。これにより、入場者数も 5 年度に比べ約 5000 人と増加しています。18 回多く事業を行ったこと、限られた人数の中でどれだけ思考されたことでしょうか。評価します。 ・また、お客様と真剣に向き合っている姿がアンケートをとり、お客様の要望に対応していること等に表れています。評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜にぎわい寄席の初来館者の割合が前年度と比べ減少しています。まず、初来館者に関心をもってもらうことが大切です。芸能散歩等のメディアを活用し、初来館者の獲得に力を入れて欲しいと思います。 ・アウトリーチを行うにあたり、鑑賞型事業が多忙・機材搬入の難しさ、開催場所の難しさ 特に体育館ではできないこと等により、なかなか行えないとのことででした。やはり実際に、にぎわい座に来ていただき鑑賞していただくことが一番かと思われます。このため、鑑賞事業の回数を減らして、これを実施することが 使命 3 の大衆芸能を担う人材を育むことになるのではないかと考えます。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜出身の桂歌丸前館長の七回忌にちなんだシリーズ公演と関連展示の実施により、市民が親しみを持って落語の多彩な魅力にふれる機会をつくったことを評価します。 ・前年度まで国立演芸場で継続して開催されていた日本演芸家連合の「大演芸まつり」を共催で 5 公演実施し、演芸の多様なジャンルを楽しむ機会を横浜市民に提供了ことを評価します。 ・年間を通じて 14 回の展示を実施し、さまざまな観点から演芸の魅力を発信したことを評価します。 ・趣味をテーマにした公演シリーズにあらたな題材（銭湯）を加えた工夫を評価します。今後のテーマの広がりを期待します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定量指標 1 の入場者数の R8 年度達成目標 5 万人は、昨年度の前年増 5,000 人を今後 2 年間継続すれば到達可能となる。25 周年企画などで入場者を増やす取り組みを期待します。
使命2 大衆芸術活動と体験の場となる	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄席文字体験講座やマジック講座には幅広い年代層が参加し、寄席文化を楽しむ機会となったことを評価します。 ・「野毛まちなかキャンパス」では、落語だけでなく、実際に大山の宿坊のご子息を招き大山詣りの話を聞くなどの工夫があったことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの教育効果について、今後は特長的な教育効果を明示して受講生の拡大を図ること、ぜひ進めていただきたいと期待します。 ・総来場者数は 96,612 人と昨年度から 6,000 人増えていますが、目標値の 110,000 人に近付くよう、引き続きの取り組みを期待します。 ・小ホールの利用率が 50%で目標の 70%に差があります。利用率向上へ引き続き取り組まれることを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総来場者数は前年度を超え、目標を上回る事業数を実施していること、さらに大学と連携した事業やバックステージツアーを開催するなど、多様なアプローチを試みている点を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供を対象とした事業、体験型事業の実施回数が目標よりも少なく、このことは使命 1 で記した新規顧客開拓の課題にも繋がると考えています。体験型事業を抜本的に見直すこと（現在の方法はやめ、学校等の団体に限定した事業にするなども視野に入れ）を考える必要があるかもしれません。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総来場数が前年より増加しています。これも御社の努力の結果だと評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小ホールの貸館利用率が低いと思います。もっと周知してもらい利用率 UP につなげて欲しいと思います。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総来場者数、貸館利用率、体験型事業の実施回数、公演誘致数、利用者施設見学回数が前年度を上回っていることを評価します。 ・寄席文字とマジックの体験講座について、目標を上回る回数実施したことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演と連動させ、舞台やロビーで演芸を体験できる時間を作り上げるなどして、さまざまな演芸が体験できるようになることを期待します。

横浜にぎわい座 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
使命3 大衆芸能を担う人材を育む	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手育成・登用を大変積極的にしており、芸能ホールでの独演会へ昇格するなどの成果が表れていること、実施回数や平均入場者数も高い数値となっていることを高く評価します。 ・こどもが小さいころから興味を持てるような企画やテーマ（鉄道ものまね等）を工夫されていることを評価します。 ・高校生・中学生の職業体験について、目標を超えて行い、大衆芸能や文化施設を理解する機会としたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもをターゲットとした事業数や横浜にぎわい寄席への学生・子どもの入場者数は、目標数値と大きな差がでています。こどもをターゲットとした事業を工夫し、広げていくことを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を上回る若手育成の場を設け、学校単位での鑑賞事業も目標よりも多く行っている点を高く評価します。どちらの取り組みも中長期的に実演家・鑑賞者双方を育成することに繋がる活動だと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使命1と2に記したように若年層への取り組みが全体的な課題と思われます。経営資源に限りがあることから、学校単位といった団体の鑑賞事業に力を入れていくことも考えられるかもしれません。全体的な見直しに向けた議論がなされることを期待したいです。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手演者育成事業の実施回数が達成指標より多く、若手演者育成におおいに取り組んでいることを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供をターゲットにした事業数が達成指標より少ないと思います。前にお聞きした時、これにかかる費用が思った以上にかかることお聞きしました。それならば、子供たちに大衆芸能や寄席を知つてもらう機会についてどのような形があるのか模索して頂き、子供の入場者数の増加・強いては次世代の人材育成を目指して欲しいと思います。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい寄席等の若手演者育成事業が目標通り実施されていることを評価します。 ・職業体験として5つの中高等学校から合計19名の生徒を受け入れたことを評価します。 ・学校単位の団体鑑賞について、目標の2倍を超える5校797名の中高生徒がにぎわい座に来場して演芸を鑑賞したことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体鑑賞のこれまでの実績をチラシやHP等で学校等にアピールするとともに、団体バスの駐車スペースの確保など受入れ体制を整備する取組に期待します。
使命4 地域のにぎわいづくりを創出する	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「野毛地区街づくり会」「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催し、目標を上回る5事業を実施したことを評価します。特に地域の方のカラオケ大会の会場としたことは、にぎわい座に興味がない方にも知つてもらう良い機会になったと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主事業公演への団体誘致数は毎年伸びてきているものの、目標の70に対し42と大きな差があります。団体利用促進のさらなる工夫を期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、地域の団体との共催、他館と連携した事業への取り組み、職員の皆さんのが地域活動にも参加し、地域と丁寧に調整しながら事業を進めている点を高く評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域や他館との連携を行い、相乗効果があらわれることを期待しています。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設・団体と連携して実施した事業数は令和5年達成指標より年々増えております。地域との連携が上手くいっていることを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後少子化が進み高齢者が多くなる事が予想されます。課題にも書かれているように、若い世代の意見を聞く機会を多く設け、それらを検討し、将来を見据えて地域のにぎわいを考えてください。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野毛地区街づくり会と共に、にぎわい座を地域の催しに施設の目標を超える回数提供し、地域住民に足を運んでもらい、にぎわい座に親しみを持つてもらえる機会を増やしたことを評価します。 ・桜木町・みなとみらい地区を巡るデジタルスタンプラリーのスポットを2階展示スペースに設置し、同地区に集まる若者に対し、にぎわい座の存在をアピールし、あわせて横浜と演芸とのつながりへの関心を高める試みを実施して、多数の来場者があったことを評価します。 ・市内3つの区の区制周年にあわせて、それぞれの区と調整して区民優待チケットを企画し、広報・集客につとめて203名の来場者を得たことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜木町・みなとみらい地区を巡るデジタルスタンプラリー参加の継続を期待します。

横浜にぎわい座 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
使命5 大衆芸能を切り口として あらゆる人を受け入れる	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市身体障害者団体連合会やYOKOへヒアリングし、バリアフリーの取り組みについて検討する手がかりを得られたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人の方、障害ある方、何がバリアなのは個々に違いますが、施設として対応できることから一つずつ取り組んでいかれるよう期待します。 ・特に障害ある方は、個人で来訪することに対してハンドルが高いことが考えられるため、近隣の障害者施設と連携し、施設側の動きとして来訪を促進されることを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者や外国人支援を行う団体へのヒアリングを行うなど、昨年に引き続き他領域の専門家から情報収集をし、障害者の利用者数が増えている点を高く評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の他領域との繋がりをさらに進め、障害を持つ人々や外国人を対象とした事業、または障害や言語・文化に関係なく楽しめる事業の構築等につながることを期待したいです。こうした事業をこの領域で構築できる可能性があると感じ、実現すれば先進的な取り組みになると思いました。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニア入場者・障がい者利用者数はともに増加している。特に障がい者数は令和5年達成指標より大幅に増加し、令和6年も令和5年の実績を保っている。これは、バリアフリー視点からの取り組みが、障がい者団体へのインタビュー調査を実施したり、来館者の声を聞いたりし、バリアフリーの取り組みに真剣に向き合っている成果だと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人に向けた取り組みがこれからということです。横浜市国際交流協会へのヒアリングを実施したところ、予想以上に理解してないことをお聞きしました。日本の文化を知ってもらう事は容易なことではありませんが、是非少しずつでも取組んでほしいと考えます。芸能散歩の外国バージョンを作成したら 在留外国人だけでなく、外国旅行者にも興味をもっていただけるのではないかと思います。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい寄席へのシニア入場者数、障がい者料金利用数がR4年以降毎年増加していることを評価します。 ・より多くの障がい者、外国人が大衆演芸を楽しめるよう関係団体にヒアリングを実施したことを評価します。 ・サービス介助士有資格者の異動に対応して、あらたに有資格者を現場配置したことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者や外国人が楽しめる演芸公演の企画を期待します。
使命6 施設運営を行ふ 持続可能性を高める	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年の仮決算で予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策の検討をし、次年度の運営に反映していることを評価します。 ・避難訓練や救急救命訓練など、災害や事故に備えた運営体制の維持に努めていることを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしても老朽化は避けられないので、横浜市は一層の注意をお願いします。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化による問題にも適切に対処し、安全・安心・確実な施設運営を行っている点を評価します。また、昨年同様に来館者の施設に対する全体評価が高く、これは職員の丁寧な仕事によるものだと思います。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設にかかる費用以外で、一部予算を大幅に超えているものがあり、適切な予算管理を期待したいです。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法定点検の実施等により事故もなく 施設運営を適切に行っていると評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今現在、機材の不都合がでているとお聞きしました。事業の最中支障があつてはならないことです。また、設備の老朽化に伴い修繕費の増加が見込まれます。早めの対応が必要となりますので、横浜市との十分な協議を行い事業に影響を及ぼす事がないよう施設運営を行ってください。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震と火災に備えた避難訓練をそれぞれ別個にスタッフ全員が参加して実施したことを評価します。 ・11月にAEDと心肺蘇生訓練人形をレンタルし、スタッフ全員が操作研修をしたことを評価します。 ・施設管理者研修の受講、防火管理者の再受講、他館での避難訓練コンサートへの複数職員の参加を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械式駐車場のトラブル発生防止策について管理組合との協議を進め、できるだけ早く実施することを期待します。 ・芸能ホール調光卓の不具合によるトラブル防止策が早期に実施されることを期待します。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・事業スタッフ・管理スタッフとも積極的に研修を受講し、スキルアップや気づきの機会を得ていることを評価します。 ・にぎわいスタッフの確保について課題と書かれていますが、確かに昨今、不足してからの補充は厳しいと思われる所以法人での検討に期待します。 ・自主事業収入は目標の117%、その他収入は目標の156%となったことを評価します。特にその他収入は新商品や取扱商品を増やした結果であり、ニーズに応じた更なる取組を期待します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶屋の撤退に伴う対応について、交流や発信の場所にするなど、飲食の提供スペースを超えた場となるような活用を期待したいです。 	<p>(収支予算書及び報告書・収入の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金・自主事業収入が予算額より大幅に増加しています。さまざまな形態の公演を催すことによる成果だと思います。また、事業以外の収入として横浜市補助金を活用し収入金額が増えました。事業以外の収入も大事です。補助金の活用はおおいにすべきです。今後もどの補助金が獲得できるのか模索して補助金獲得・雑収入として協賛金等の獲得を目指してください。 <p>(収支予算書及び報告書・支出の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費が減少しています。行政の評価によると職員の働き方改革だと書かれていました。ワークバランス促進の寄与・それに伴い経費削減できたこと評価します。 ・支出で一番気になるところは、管理費の中の光熱水費の増加です。貴社だけでなく、光熱水費の高騰は家庭でも他の企業でも増加しています。今後も光熱費の高騰は持続することが予想されます。どの経費が削減できるのかひとつひとつの項目について再度検討が必要だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルグッズの売上収入も含め、自主事業収入について、予算を上回る実績をあげたことを評価します。 ・収支決算において、光熱水費の大幅な予算超過にもかかわらず、予算総額の5%超の収支差額の黒字実績を上げたことを評価します。 ・事業運営に関しても、令和8年度の目標達成に向けて業務委託を加えてマンパワーの確保を検討されてはいかがでしょうか。

横浜にぎわい座 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	加世田委員	高島委員	田中委員	廣瀬委員
総括	<p>・桂歌丸前館長の七回忌にあわせたリスペクト公演をはじめ、様々な自主事業を企画し数多く開催されたことを高く評価します。</p> <p>・「登竜門シリーズ」はにぎわい座のブランドになり、今年度も多くの若手を育成・輩出しました。また、こどもをターゲットとした事業も様々工夫して展開しており、次世代の育成に向けた意欲的な取り組みを評価します。</p> <p>・「大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる」ため、外国の方や障害ある方に向けた取り組みの検討を始めました。特に障害については個々のバリアの違いが大きいので、なかなか対応が難しいこともあると思いますが、障害ある方の利用施設に協力を仰ぎ、検討を進めていかれることを期待します。</p>	<p>・昨年同様に、全体を通して大衆芸能と地域の両方の発展を見据えて、バランスの良い丁寧な運営がなされていると思いました。特に、地域、実演家、来場者（リピーター）との良好な関係が築けている点は高く評価したいです。</p> <p>・一方、昨年から引き続きの課題に若年層へのアプローチが挙げられます。新たな取り組みを行いつつも、試行錯誤しているように感じました。アウトリーチの取り組みが広がっていることや大衆芸能が子供を対象にしにくい点を踏まえると、中学生まではアウトリーチのみに集中し、観客としての若年層へのアプローチは高校生以上に対象を絞るといった事業の整理、目標値の見直しも必要ではないかと思いました。</p> <p>・組織運営に関しては、物価高騰、施設老朽化という問題を抱える中、日々工夫しながら運営がなされていることが伝わりました。しかし、この状態が続くと、職員の疲弊といった問題も生じるのではないかと危惧します。必要な研修の実施だけではなく、職員がモチベーションを高め、新しいことにチャレンジできる機会の創出としての人材育成の取り組みがあっても良いのではないかと考えます。</p> <p>・大衆芸能の技芸だけではなく、大衆芸能の劇場文化（寄席文化）の継承も意識した取り組みがなされていくことを期待したいです。</p>	<p>・収支予算書及び報告書において収入金額の決算額が予算額より2,000万円増加しています。コロナの影響から回復したこともあることながら、貴社の事業へ取組方の努力の現れだと思います。</p> <p>・支出金額は、管理費の増加にもかかわらず、当初予算額と150万増加しただけで、最終的に1,800万の利益となっています。</p> <p>・館長の理念として、にぎわい座は娯楽施設だが教育の現場と考え、それを演出者に伝え、理解を求め、演出者のギャラを通常の6割で抑えてもらっていることが支出の抑制にもなっています。これからも、この理念を貫き使命を実現してほしいと思います。</p> <p>・ただ、これだけの事業を行うにあたり、常時5人だけでは少ない気がします。大衆芸能を担う人材を育むとありますが、にぎわい座においても、人材の確保・育成が必要かと思われます。</p> <p>・懸念されることは 老朽化に伴い 大規模な修繕が必要になった時、事業に及ぼす影響です。このような事態になったことを考え、この場合どのように事業を展開するのか、今から検討する必要があると考えます。</p>	<p>・多彩な企画により入場者数、公演数とも令和4年度より毎年増加していることから、大衆芸能と市民をつなげる使命の達成に努めていることを評価します。入場者数の令和8年度目標値の達成を期待します。</p> <p>・総来場者数と利用者施設見学回数が令和4年度より毎年増加していることから、大衆芸能を始めとした文化芸術活動と体験の場となる使命の達成に努めていることを評価します。総入場者数、体験型事業実施回数のR8年度目標値達成を期待します。</p> <p>・若手演者育成事業やこどもをターゲットとした事業を実施し、大衆芸能を担う人材を育む使命にむけて努めていることを評価します。にぎわい寄席は毎月1日から7日と開催日が定まっているため、学校団体としての学生、こどもの鑑賞は制約されます。にぎわい座で実施する学校単位の貸切公演の来場者数を考慮することを検討してはいかがでしょうか。</p> <p>・地域の施設・団体と連携した事業の実施や意見交換により、地域のにぎわいを創出する使命の達成に向けて努めていることを評価します。</p> <p>・にぎわい寄席でのシニア料金の設定、障がい者や外国人が大衆芸能を楽しめるよう関係団体にヒアリングを実施するなど、大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる使命の達成に向けて努めていることを評価します。</p> <p>・施設の管理瑕疵に起因する事故件数がないこと、法定点検・避難誘導訓練の実施、施設設備の維持管理の実施と記録・報告が適切になされていることから、持続可能性を高める施設運営を行うという使命に向けて努めていることを評価します。</p> <p>・限られた人的、法務・財務的制約のもとで工夫を重ね、必要な人材の配置と研修等による主要人材の能力担保に努め、目標達成に向けて日々努力されていることを評価します。</p>

行政評価

【使命1】大衆芸能と市民をつなげる**【評価できる点】**

・桂歌丸前館長七回忌に合わせ、「桂歌丸師匠リスペクト公演」として、ライフワークであった三遊亭圓朝作品の復活や埋もれた古典落語・希少演目の発掘に焦点を当てたシリーズ公演(5回)を企画し、落語の魅力発信に取り組んだことを高く評価します。

・鑑賞型事業では、25ジャンル(前年度比100%)、245回(前年度比114%)、入場者数38,106人(前年度比114%)となっており、前年度を上回る事業展開ができている点を評価します。また、来場者がオンライン上でチケット購入するための票券システム「Gettii／ゲッティ」の会員数は、32,187人(前年比110%)と順調に増加しています。

・展示型事業では、公演に関連した展示を年間14回(前年度12回)実施しており、「桂歌丸師匠リスペクト公演」に合わせて歌丸師匠の芸と人生を辿る「桂歌丸前館長にぎわい座芸人伝」の展示を開催する等、公演に訪れた来場者の興味や関心に訴求する取り組みを行ったことを評価します。

・様々な切り口から大衆芸能を楽しめるように趣味をテーマにした公演「ただの〇〇好きシリーズ」を実施しており、6年度からは新たに「錢湯好き」というテーマを加え、来場者の裾野を広げる取り組みを行っている点を評価します。

・落語の舞台になった場所や関連する史跡などを動画で紹介する「芸能散歩」に新しいコンテンツを追加し、より落語を楽しめるように工夫を凝らしている点を評価します。

【より一層の取組を期待する点】

・指定管理者の提案指標である、横浜にぎわい寄席の初来館者の割合(R5実績38.1%→R6実績37.9%)が微減しています。常連客の獲得も必要なことですが、大衆芸能の間口を広げるためにも、新規来場者層へのアプローチの強化を引き続き期待します。

・若い来場者層へのアプローチについては、「ただの〇〇好きシリーズ」のようにテーマに工夫が見られますが、より若年層の目に留まりやすいSNS等の媒体を選定して周知するなど、更なる工夫を期待します。

【使命2】大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる**【評価できる点】**

・総来場者数は、96,612人(前年度比106%)、貸館利用率は、芸能ホール77%(前年度75%)、小ホール50%(前年度44%)と前年度と比較すると、定量指標では上昇傾向である点は評価できます。

・公演前後の寄席囲を使用し、普段は見られない舞台裏を見ることできる「バックステージツアー」を実施することで、ホールを有効活用しながら、大衆芸能に興味を持つてもらう取り組みを継続している点を評価します。

・野毛地区街づくり会、野毛地区振興事業協同組合及び横浜商科大学と連携した公開講座「野毛まちなかキャンパス」において実施した「名作落語『大山詣り』を楽しむ」では、落語鑑賞する際の一助となるように取り組んだ点を評価します。

【より一層の取組を期待する点】

・貸館利用率は上昇傾向にあるものの、小ホールの利用率は低い状態であるため、利用率向上に向けた取り組みを引き続き検討する必要があります。

・体験型事業の実施回数は17回(前年度15回)と増加しているものの、目標の25回には届いていません。「寄席文字体験講座」や「マジック体験講座」等の体験型事業は、人気があるので継続しつつ、様々な切り口から大衆芸能に触れるができる体験の場を提供できるように更なる事業企画に期待します。

・野毛飲食業協同組合との協議の結果、野毛茶屋の撤退が決定したことは残念ですが、利用者サービスが低下することのないように自動販売機の追加等の代案を進めてください。

横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 令和6年度指定管理業務・行政評価シート

【使命3】大衆芸能を担う人材を育む

【評価できる点】

・横浜にぎわい寄席への積極的な若手の登用や、若手芸人の研鑽と飛躍のための機会を提供する場として実施している「登竜門シリーズ in のげシャーレ」において、力をつけた若手実力派たちが芸能ホールでの独演会へ昇格を果たす等、若手演者育成公演は充実しています。事業実施回数が199回(R8達成指標200回)、平均入場者数は、211人(前年度比139%)となっており、次世代育成を着実に推し進めている点を高く評価します。

・春休み及び夏休みの期間に合わせて、「こども寄席」や「バックステージツアー」を企画する等、次世代を担う子どもが大衆芸能に触れて関心を持てるような事業を実施している点を評価します。

・小学生以上を対象にした「鉄道ものまねワークショップ」を新たに開催し、参加者14名+保護者9名の実績がありました。寄席演芸だけではなく、子どもが興味を持ちそうなテーマに焦点を当てた取り組みに挑戦している点を評価します。

・高校生及び中学生の職場体験を行っており、計5校19名の学生を受け入れ、大衆芸能や文化施設の役割について理解を深めもらう場を提供した点を評価します。

【より一層の取組を期待する点】

・子どもをターゲットとした事業数が16事業となっており、目標と大きく乖離しているため、様々な視点から子ども向けの事業を検討し、バリエーションの幅を広げていくことを期待します。

・横浜にぎわい寄席への学生、子どもの入場者数が年々減少(R4:399人 R5:352人 R6:315人)しています。子どもが大衆芸能を体験できる貴重な機会と捉え、入場者数増加へ繋がるように創意工夫を図ってください。

【使命4】地域のにぎわいを創出する

【評価できる点】

・野毛大道芸への協力や野毛地区街づくり会内に設置されている「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催し、野毛地区カラオケ大会を実施するなど、地域と連携した取り組みにより地域のにぎわいづくりに寄与している点を評価します。

・西区内の障がい者の就労及び地域生活をサポートしている社会福祉施設と連携した「にぎわい&にじょこ寄席」や、栄区内の本郷ふじやま公園と連携した「本郷ふじやま出前寄席」によるアウトリーチを共催により実施するなど、野毛地区だけに留まらず、地域の施設や団体と連携した取り組みを継続しています。また、赤レンガ倉庫1号館と「横浜ダンスコレクション」を共催し、指定管理者である横浜市芸術文化振興財団の強みを活かした施設連携を展開している点を評価します。

【より一層の取組を期待する点】

・自主事業公演への団体誘致数は、年々増加傾向(R4:27団体 R5:39団体 R6:42団体)にありますが、目標値とは乖離があります。新型コロナウィルスの影響も落ち着いてきておりますので、団体利用が増えるように更なる団体サービスのPR方法の検討を望みます。

【使命5】大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

【評価できる点】

・定量指標では、横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数(R4:1,523人 R5:2,096人 R6:2,419人)及び横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数(R4:369人 R5:473人 R6:479人)は、ともに増加しており、様々な人が大衆芸能を楽しむことができる場になっていることを評価します。

【より一層の取組を期待する点】

・障がい者の鑑賞体制の充実を図るために横浜市身体障害者団体連合会との意見交換の実施や、外国人向けの取り組みを検討するために横浜市国際交流協会(YOKE)ヘビアリングを実施するなど、誰もが大衆芸能を楽しめるように研究を進めているので、具体的な取り組みに繋がるように今後の展開に期待します。

【使命6】持続可能性を高める施設運営を行う

【評価できる点】

- ・日常点検や定期点検により設備を適切に維持しているとともに、予算金額を超える修繕費を執行しており、設備の老朽化が進む中で来館者が快適に利用できるように努めています。
- ・避難訓練、模擬消火訓練やAED操作研修を計画どおりに実施するなど、災害や事故に備えて管理運営体制の維持に努めています。

【より一層の取組を期待する点】

- ・設備の老朽化が進む中で、今後様々な修繕が想定されます。特に舞台設備関係は、修繕費の規模が大きく、不具合が生じても直ちに工事着手することは難しいため、引き続き状況を把握し、保守保全に努めてください。

その他

【評価できる点】

- ・オンラインによる外部研修の開催が増え、施設職員が受講しやすい環境になったことに伴い、スキルアップのために積極的に研修を受講している点は評価できます。特に障害者差別解消法改正に伴う「合理的配慮の提供」は公共施設を運営する際に重要であるため、個々人の理解を深めるように引き続き取り組んでください。
- ・自主事業収入 120,123,420円(予算比 116%)、利用料金収入 16,298,600円(予算比 105%)と計画に対して収入増となっています。また、前年度と比較しても収入は増加していることから、新型コロナウィルスの影響から順調に回復しており、自主事業の集客促進効果等が収入面にも表れていると評価できます。
- ・人件費を抑制するために超過勤務の事前申請を徹底して取り組んだことから、職員の超過勤務時間の目標(10.5時間/月)に対して実績(3.1時間/月)が下回っており、経費削減はもちろんのこと、職員のワークライフバランス促進にも寄与しています。

【より一層の取組を期待する点】

- ・近年の物価高騰等の厳しい状況は今後も見込まれることから、収入増や経費削減に繋がる取り組みについて、更なる創意工夫を期待します。

総括

- ・桂歌丸前館長七回忌に合わせて実施した「桂歌丸師匠リスペクト公演」に代表されるように、多種多様な自主事業を企画し、意欲的に取り組んだ結果、入場者数の増加や収入の増加に繋がっている点を大いに評価します。
- ・来場者数や貸館利用率などの上昇により、体験や鑑賞の機会の増大に繋がったことを評価します。体験型事業について、実施回数が目標を下回っていますので更なる事業企画に期待しています。
- ・「登竜門シリーズ in のげシャーレ」等の若手演者の育成の機会を多く設けているほか、「こども寄席」や「マジック体験講座」等の子どもをターゲットにした事業も広く展開しており、次世代育成に向けた事業展開がなされていることを評価します。一方で、子ども向けの事業数や子どもの入場者数については向上の余地があると考えられるため、体験型のイベントやワークショップの開催等、今後の事業計画に期待します。
- ・野毛地区の施設・団体と連携した事業展開による地域のにぎわいづくりはもちろんのこと、アウトリーチ事業や区民優待デー等による広範囲での連携を実施していることを評価します。
- ・横浜にぎわい寄席におけるシニア入場者数及び障がい者料金利用数が増加傾向にあり、誰もが大衆芸能を楽しめるような場を提供できていることを評価します。
- ・老朽化による設備等の不具合により、予算金額を超える修繕費を執行する必要がありました。しかし、事故を起さず、安定的な施設運営を行ったことを評価します。
- ・今後もより多くの市民へ、大衆芸能の魅力を発信し、設置目的を効果的に達成できるよう、事業やサービスを積極的に展開されることを期待します。